

統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日: 平成 18 年 8 月 25日

(ふりがな) おかだ まこと

氏名: 岡田 誠

所属(職名): 茨城大学理学部(助教授)

会議名: 第3回STP 会議

会議期間: 平成18年6月26日 ~ 平成18年6月28日

用務地(国・都市): フィンランド・ヘルシンキ

目的

ヘルシンキにあるフィンランドアカデミーで開催された第3回STP会議に議長として出席し、IODPに対する科学技術アドバイスをを行うSTPの会議を行った。

会議内容及び報告事項

今回の会議は、ヘルシンキ大学のSTPメンバーであるAnnakaisa Korja教授をホストとして、フィンランドの学術関係のfunding agency(米国のNSFに相当)であるフィンランドアカデミーを会場として行われた。出席メンバーは以下の通りである。

STP

阿波根直一 北海道大学
笠原順三 日本大陸棚調査(株)
布浦拓郎 JAMSTEC
岡田 誠 茨城大学
坂本竜彦 JAMSTEC
鈴木紀毅 東北大学
山本正伸 北海道大学 以上, 日本より。

Castillo, Paterno (SIO)
Christensen, Beth (Adelphi Univ.)
Mandernack, Kevin (Colorado School of Mines)
Wheat, Geoffery (Univ. Alaska Fairbanks)
Wilkins, Roy (Univ. Hawaii) 以上, 米国より。

Basile, Christophe (Univ. F. Fourier, France)
Korja, Annakaisa (Univ. Helsinki, Finland)
Lovell, Mike (Univ. Leicester, UK)
Villinger, Heinrich (Univ. Bremen, Germany) 以上, ヨーロッパ連合より。

Ge, Hongkui (China Earthquake Administration) 以上, 中国より。

リエゾン・ゲスト

MacLeod, Chris (SPC)
Ursula, Rohl (ESO)
Inwood, Jenny (ESO)
杉原孝充 (CDEX)
Gaillot, Phillipe (CDEX)
Blum, Peter (USIO)
Higgins, Sean (USIO)
Hous, Chris (PAC SODV)
Schuffert Jeff (IODP-MI)

以上、参加者はメンバー17名(米国の2名が欠席)、リエゾン・ゲスト9名、合計26名であった。

会議内容は非常に広範にわたるため、ここでは重要事項や日本に関係のある項目を中心に報告する。

会議初日は、午前中に、会場説明、自己紹介やSTPの目的等の説明から、定例報告(IMI-Sapporo, 各IOからの現状報告および直近のSPC, SSEP報告)が行われた。午後にはUSIOからSODV関係の現状報告がなされた。夕方にはヘルシンキ大学主催のレセプションが行われた。

会議2日目は、主にSODV関係の議論が以下の項目に関して集中的に行われた。

- a) lab design and measurement capabilities
- b) active heave compensation
- c) drill pipe
- d) camera
- e) engineering issue and downhole T & P tools
- f) computers, laptops, large screens

このうちa)については、Petrophysics, Biology & Chemistry, Core description の3グループに分かれて議論して、USIOに対するSTPの見解を、5つのConsensus statementsとしてまとめた。

この他、IMI-Sapporoから要請のあったWorkshop へのSTPからの参加メンバーの決定を行った。これらのWorkshopはいずれもSTPから提出されたrecommendationsを扱うもので、9月中～下旬に渡りTAMUで開催が予定されている。以下に提案されているWorkshopと、会議で決定したSTPからの参加者を示す。

- Visual core description (VCD): Pat Castill, Clive Neal
- Depth scale: 坂本竜彦
- Digital Taxa Dictionaries 鈴木紀毅・Beth Christensen(会議後にSTPからの参加は不要となった)
- QA/QC task force (開催時期未定)

これらの内、QA/QCに関してはtask forceの構成メンバー等を再考するようrecommendationが提出されたが、会議後に進められたmail会議によってtask forceのメンバーとしてSTPから一名加えること等を決めることで最終的に合意した。

また、高知会議で退任した難波委員が勤めていたCuratorial Adviserly Board (CAB)の後任として2名の候補者(山本委員, 布浦委員)を日本側委員から推薦することを決定した。

3日目は、前回までの会議でAction itemsとなっていた以下の事項について主に議論された。

- **T & P controled PP measurements** (温度・圧力制御下における物性測定)

これは地球による深部掘削時に必要な項目であり、笠原委員により主に進められてきた案件である。議論の結果、高温高圧下における物性測定の実現可能性についてCDEXによる調査結果を待つという**consensus statement**が作成された。

- **Accuracy and precision of T & P tools** (温度・圧力ツールの精度)

これも笠原委員が中心となり進められてきた案件である。現在IODPで使用されている構内温度圧力ツールは、測定精度やキャリブレーション法等についての記載がはっきりしていないものが多いという問題提起がなされ、議論の結果、各IOに対してそれらの項目の調査・報告を行うことを求める**consensus statement**が作成された。

- **Post-Expedition results** (航海後データのデータベースへの登録)

これは高知会議の時にChristensen委員から提起されたもので、特にAge modelのように航海後に更新される情報について、各IOが管理するIODPのデータベースへ登録することを可能にするよう求める**recommendation**を作成した。

- **Laser ablation ICP-MS on Chikyu**

IODP platforms における LA-ICP-MS使用の可能性を探るものであるが、「ちきゅう」船上で現在行われている試験的運用の結果を次回会議にCDEXが報告するよう求める**Consensus statement**が作成された。

この他、笠原委員、Korja委員によって行われた**proposal review**の結果が報告され、承認された。

新議長・副議長について: 議長の岡田は今回で議長職を退き、副議長のMike Lovellが議長昇格すること、およびブレーメン会議で一旦委員を退任した米国のClive Neelが副議長として新たにSTPに加わることが確認された。これらの事項は8月のSPCの承認を経て執行される運びである。

次回会議: 開催予定地は米国カリフォルニア州モンレーで、日程は1月下旬~2月上旬を予定している。ただし日程については流動的。